

平成30年度 決算報告書

国立大学法人筑波技術大学

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
収入				
運営費交付金	2,396	2,430	34 (注1)	
施設整備費補助金	288	217	△ 71 (注2)	
船舶建造費補助金	—	—	—	
補助金等収入	0	4	4	
大学改革支援・学位授与機構施設費 交付金	15	15	0	
自己収入	411	380	△ 31	
授業料、入学金及び検定料収入	234	207	△ 27 (注3)	
附属診療所収入	121	123	2 (注4)	
財産処分収入	—	—	—	
雑収入	56	50	△ 6 (注5)	
産学連携等研究収入及び寄附金 収入等	29	39	10 (注6)	
引当金取崩	—	—	—	
長期借入金収入	—	—	—	
貸付回収金	—	—	—	
目的積立金取崩	10	1	△ 9 (注7)	
計	3,149	3,085	△ 64	
支出				
業務費	2,816	2,713	△ 103	
教育研究経費	2,602	2,518	△ 84 (注8)	
診療経費	214	195	△ 19 (注9)	
施設整備費	303	232	△ 71 (注10)	
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	0	4	4	
産学連携等研究経費及び寄附金 事業費等	29	24	△ 5 (注11)	
貸付金	—	—	—	
長期借入金償還金	1	1	0	
大学改革支援・学位授与機構施設費 納付金	—	—	—	
計	3,149	2,974	△ 175	
収入-支出	0	111	111	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、特殊要因運営費交付金のうち年俸制導入促進費、退職手当の追加配分があったことにより、予算額に比して34百万円増となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、防災設備計画に変更があったことに伴い71百万円減となっております。
- (注3) 自己収入のうち授業料、入学料及び検定料収入については、受験者数、入学者数ともに見込より減となったため、予算額に比して27百万円の収入減となっています。
- (注4) 自己収入のうち附属診療所収入については、患者数の当初の見込みに対し4.6%増加したことにより、予算額に比して2百万円増となっています。
- (注5) 自己収入のうち雑収入については、入学者が当初の見込みに対し減少したことによる寄宿舍収益の減などにより、予算額に比して6百万円減となっています。
- (注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、当初の見込み以上の共同研究事業収入があったことにより、予算額に比して10百万円増となっています。
- (注7) 目的積立金取崩については、新設の総合研究棟関連の支出に充てる予定でしたが、計画変更に伴い差額が生じております。
- (注8) 業務費のうち教育研究経費は、主として教職員の未補充に伴い、予算額に対して84百万円の減となっております。
- (注9) 業務費のうち診療経費は、主として附属病院収入の増加に伴い、予算額に比して11百万円の増となっています。
- (注10) 施設整備費については、(注2)で示した理由により予算額に比して71百万円減となっています。
- (注11) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、収入が増になったものの繰越し額が当初見込より増加したことから予算額に比して5百万円の減となっています。